

Ⅲ 臨床編
Ⅲ-4 脂質異常症

用語	かな	欧文表記	略語	同義語・関連語	解説
アキレス腱肥厚	あきれすけんひこう	achilles tendon thickness	ATT		家族性高コレステロール血症 (FH) で特徴的な腱黄色腫の一種で、アキレス腱が肥厚したものである。アキレス腱側面のX線撮影により、男性で8 mm、女性で7.5 mm以上、超音波による場合は男性で6 mm、女性で5.5 mm以上を肥厚とする。
アシルCoAコレステロール アシルトランスフェラーゼ	あしるこえーこれすてろー るあしるとらんすふえらー ぜ	acyl-CoA cholesterol acyltransferase	ACAT		細胞内の余剰なコレステロールをエステル化する酵素。
アテローム動脈硬化性心 血管疾患	アテローム動脈硬化性心 血管疾患	atherosclerotic cardiovascular disease	ASCVD		動脈の壁の中に脂肪プラークが蓄積し血流が制限されて起きる冠動脈性心疾患、脳血管疾患、末梢動脈疾患などの症状。
アポタンパク アポリポタンパク	あぽたんぱく あぼりぽたんぱく	apoprotein apolipoprotein	apo	アポタンパク	「アポリポタンパク」の項目参照。
アポリポタンパクE	あぼりぽたんぱくいー	apolipoprotein E	アポE		リポタンパク (CM, HDL, LDL, VLDL など) のタンパク成分。
アポリポタンパクA-II	あぼりぽたんぱくえーつー	apolipoprotein A-II	アポA-II		カイロミクロン、超低比重リポタンパク (VLDL)、レムナントなどのリポタンパクに存在し、LDL 受容体、VLDL 受容体、LRP、レムナント受容体のリガンドとしてリポタンパク代謝において重要な役割を有する。
アポリポタンパクA-I	あぼりぽたんぱくえーわん	apolipoprotein A-I	アポA-I		高比重リポ蛋白の構成タンパクであるが、役割については不明な点が多い。
アポリポタンパクC-III	あぼりぽたんぱくしーす りー	apolipoprotein C-III	アポC-III		高比重リポタンパク (HDL) の構成タンパクであり、レシチンコレステロールアシル転移酵素 (LCAT) を活性化し、末梢組織からコレステロールを引き抜き、これを肝臓に運ぶコレステロール逆転送系においてHDLの抗動脈硬化作用に寄与する。
アポリポタンパクC-II	あぼりぽたんぱくしーつー	apolipoprotein C-II	アポC-II		カイロミクロン、超低比重リポタンパク (VLDL) に存在し、リポタンパクリパーゼ (LPL) 活性抑制作用を有する。
アポリポロテイン(a)	あぼりぽろていんえー	apolipoprotein (a)	Apo (a)		カイロミクロン、超低比重リポタンパク (VLDL) に存在し、リポタンパクリパーゼ (LPL) の活性発現に不可欠の補酵素である。欠損症において、著明な高トリグリセリド血症を示す。
アポリポロテインB	あぼりぽろていんびー	apolipoprotein B	アポB		Lp(a)内のタンパクで、プラスミノゲンとの相同性があり、血栓形成に関わる。
アンギオオエチンライク3 アンギオオエチンライク3阻 害薬	あんぎおぼえちんらいくすりー あんぎおぼえちんらいくすりー そがいやく	angiopoietin like 3 angiopoietin like 3 inhibitor	ANGPTL3		カイロミクロン、超低比重リポタンパク (VLDL) に存在し、低比重リポタンパク (LDL) に存在し、血漿コレステロールの担体として、また受容体を介した細胞へのリポタンパク取り込みのリガンドとして働くタンパク。肝臓で合成されるB-100と小腸で合成されるB-48が存在する。
陰イオン交換樹脂	いんいおんこうかんじゆし	resin	レジン	コレステミド、コレステラミン	肝臓で合成されるタンパクで、LPL活性を阻害する作用がある。機能喪失型変異は低LDL-C、低HDL-C、低TG血症を示す。
インクリシラン	いんくりしらん	inclisiran			ANGPTL3を阻害する薬剤は、抗体医薬と核酸医薬が開発されている。抗体医薬はエビナクマブ。
エイコサペンタエン酸	えいこさぺんたえんさん	eicosa pentaenoic acid	EPA	魚油に含まれるω-3多価不飽和脂肪酸	腸管内で胆汁酸を吸着し、腸肝循環を絶つことにより、肝臓の胆汁酸プールの減少、胆汁酸合成の増加、肝臓内コレステロールの需要増加からLDL受容体発現を増加し、LDLコレステロールを低下させる薬剤。
HDLコレステロール	えいちでいーえるこれすて ろーる	high-density lipoprotein cholesterol	HDL-C		PCSK9をsiRNAを用いて阻害する核酸医薬である。阻害効果の持続期間が長く、年に2回の投与でLDL-Cの低下効果が報告されている。欧州、米国ですでに承認されている。
ARHタンパク	えーあーるえいちたんぱく	autosomal recessive hypercholesterolemia protein		LDLRAP1 (low-density lipoprotein receptor adaptor protein 1)	生体内で合成されない必須脂肪酸のうち魚油に多く含まれる多価不飽和脂肪酸で、ω-3脂肪酸に分類される。トリグリセリド低下作用や抗血栓作用に基づいた動脈硬化抑制作用が報告されている。
ACE阻害薬	えーすそがいやく	angiotensin-converting enzyme inhibitor	ACE-I, ACEI		高比重リポタンパク (HDL) 中のコレステロールのことで、疫学研究および観察研究においてその低下が冠動脈疾患の発症と関連することから、善玉コレステロールとも呼ばれる。
ATP結合カセットトランス ポーターA1	えーていーピーけつごうか せつととらんすぽーたー えーわん	ATP-binding cassette transporter A1	ABCA1		LDL受容体のアダプタータンパクで、クラスリン、AP2とともに複合体を形成してLDL受容体の細胞内取り込みに関わる。
ATP結合カセットトランス ポーターG5/G8	えーていーピーけつごうか せつととらんすぽーたー じーふあいじーえいと	ATP-binding cassette transporter G5/G8	ABCG5/G8		アンギオテンシンからアンギオテンシンⅡへの変換酵素を阻害すると同時にブラジキニンの分解を抑制して降圧作用を示す降圧薬。デキストラン硫酸セルロース法を用いたLDLアフェシスとの併用は禁忌である。
エゼチミブ	えぜみちぶ	ezetimibe		小腸コレステロールトラ ンスポーター阻害薬	アポA-IIにコレステロールやリン脂質を細胞膜の内側から外側へ運搬して、高比重リポタンパク (HDL) 生成に寄与するタンパク質。タンジール病の原因遺伝子である。
エビナクマブ	えびなくまぶ	evinacumab			ABCG5とABCG8はヘテロダイマーを形成して、小腸において植物ステロールの排泄に関わる。
エボロクマブ	えぼろくまぶ	evolocumab			「小腸コレステロールトランスポーター阻害薬」を参照。
LDLコレステロール	えるでいーえるこれすて ろーる	low-density lipoprotein cholesterol	LDL-C		ANGPTL3に対する抗体医薬で、FHホモ接合体に対するLDL-C低下効果があり、欧州および米国で承認されている。
LDL受容体	えるでいーえるじゅようた い	low-density lipoprotein receptor	LDLR		PCSK9に対する抗体医薬であり、スタチン、エゼチミブに加えて、さらにLDL-C値を低下する作用がある。アウトカムスタディで心血管疾患予防に効果があることが示されている。
LDL受容体関連物質	えるでいーえるじゅようた いかんれんぶっしつ	LDL receptor related protein	LRP		低比重リポタンパク (LDL) に含有されるコレステロールのことで、その高値は動脈硬化の発症と関連し、介入による低下で動脈硬化の発症を予防することができる。
黄色陰板症	おうしょうくばんしょう	xanthelasma			ほとんどの細胞表面に存在して、低比重リポタンパク (LDL) を結合して細胞内に取り込むタンパクであり、その活性により血中LDLコレステロール値を制御する。LDLR遺伝子変異による機能低下が、家族性高コレステロール血症の主要な原因となっている。
黄色腫	おうしょくしゅ	xanthoma			「低比重リポタンパク受容体関連タンパク」の項目参照。
黄色腫症	おうしょくしゅしょう	xanthomatosis			眼瞼にみられる黄色腫を指すこともある。
横紋筋融解症	おうもんきんゆうかいし ょう	rhabdomyolysis			脂質の沈着によって起こる皮膚や腱の肥厚。脂質異常症でみられる。
カイロミクロン (カイロマ イクロン)	かいりみくろん (カイロマ イクロン)	chylomicron	CM		黄色腫症とは皮膚の粘膜に漏れ出た脂質を組織球が貪食し、泡沫細胞として組織に存在する状態で、黄色腫は黄色腫細胞が真皮に浸潤することにより皮下結節として触れ、通常、アキレス腱、膝蓋腱、および指伸腱に起こる。
角膜輪	かくまくりん	corneal ring		corneal arcus	腎機能障害を伴う筋肉症状があり、通常ミオグロビン尿を伴う。
					超遠心分析法により0.96 mg/dL未満に分画される最も比重が低い外因性リポタンパク。小腸粘膜で合成される巨大脂肪滴で脂質を輸送。
					角膜辺縁部にみられる白色の輪状の沈着。老人性のもつと主に家族性高コレステロール血症で認められる若年性のコレステリルエステルの沈着によるものがある。

用語	かな	欧文表記	略語	同義語・関連語	解説
家族性LCAT欠損症	かぞくせいえるきやっとけっそんしょう	familial LCAT deficiency	FLD		著明な低HDL-C血症と角膜混濁、溶血性貧血、腎障害等の特徴とする常染色体劣性遺伝性疾患。
家族性欠陥アポB血症	かぞくせいけっかんあぽびーけっしょう	familial defective apolipoprotein B-100	FDB		アポB遺伝子変異による家族性高コレステロール血症である。日本では数例の報告のみである。
家族性高コレステロール血症	かぞくせいこうこれすてろーるけっしょう	familial hypercholesterolemia	FH		高LDL-C血症、早発性冠動脈疾患、腱・皮膚黄色腫を4主徴とするLDL受容体およびその関連分子の異常による常染色体優性遺伝疾患。
家族性Ⅲ型高脂血症	かぞくせいさんがたこうしけっしょう	familial type III hyperlipoproteinemia	Type III FH	Broad β病	高コレステロール血症、高トリグリセリド血症を呈し、カイロミクロンレムナントやIDLの増加、血漿リポタンパクの電気泳動でVLDLからLDLに連続性のbroadパターンが特徴的である。アポEの多型性異常(E2/E2)を基盤に発症し、若年性動脈硬化症を示す。
家族性複合型高脂血症	かぞくせいふくごうがたこうしけっしょう	familial combined hyperlipidemia	FCHL		常染色体優性遺伝形式をとる脂質異常症と考えられているが、その原因遺伝子などの詳細は明らかでない。複数の遺伝子の関与が示唆されている。
肝性トリグリセリドリパーゼ	かんせいとりぐりせりどりばーぜ	hepatic triglyceride lipase	HTGL		主に肝細胞で合成・分泌され、LDLやHDL中のトリグリセリド(TG)やリン脂質(PL)を水解する酵素。その欠損症では総コレステロール値、TG値、HDL-C値の増加を呈する。
魚眼病	ぎょがんびょう	fish-eye disease	FED		LCAT欠損症のうち臨床症状が角膜混濁に限局するもの。
原発性高カイロミクロン血症	げんぱつせいこうかいろんみくろんけっしょう	primary chylomicronemia	PCS		LPLやapo CII,GPIHBP1など、カイロミクロンの分解に必要であるタンパクの欠損により、カイロミクロンが血中にうっ滞する遺伝病である。
家族性低βリポタンパク血症	げんぱつせいでいべーたりぼたんぱくけっしょう	familial hypobetalipoproteinemia			ApoB遺伝子の機能喪失型変異のホモ接合体として発症し、顕著な低LDL-C血症、脂肪吸収障害による脂肪便、網膜色素変性、多彩な神経症状を示す。
高トリグリセリド血症	こうとりぐりせりどけっしょう	hypertriglyceridemia	HTG		空腹時の血中TG値が150 mg/dL以上の状態。
高比重リポタンパク	こうひじゅうりぼたんぱく	high-density lipoprotein	HDL	高密度リポタンパク	直径6-12 nm、超遠心法により比重1.063-1.210に分画されるリポタンパク。コレステロールを末梢組織から引き抜き、肝臓へ輸送する。抗動脈硬化作用を有すると考えられている。
高比重リポタンパクコレステロール	こうひじゅうりぼたんぱくこれすてろーる	high-density lipoprotein cholesterol	HDL-C	高密度リポタンパクコレステロール	HDL中に含まれるコレステロール。
コレステミド	これすちみど	colestimide			「陰イオン交換樹脂」の項目参照。
コレステラミン	これすちらみん	cholestyramine			「陰イオン交換樹脂」の項目参照。
コレステリルエステル	これすてりるえすてる	cholesteryl ester	CE		LCAT（リポタンパク）またはACAT（細胞内）の作用でエステル化されたコレステロール。
コレステリルエステル転送タンパク	これすてりるえすてるてんそうたんぱく	cholesteryl ester transfer protein	CETP		高比重リポタンパク（HDL）からアポB含有タンパクへCEを転送し、交換にトリグリセリド（TG）を高比重リポタンパク（HDL）へ転送するタンパク。その欠損症では高HDL-C血症が生じる。
コレステリルエステル転送タンパク欠損症	これすてりるえすてるてんそうたんぱくけっそんしょう	cholesteryl ester transfer protein deficiency	CETP deficiency		原発性高HDL-C血症の代表的な成因。その抗動脈硬化惹起性については議論されている。
コレステロール	これすてろーる	cholesterol			細胞膜の構成成分、胆汁酸やホルモンの材料、動脈硬化の成因に強く関与。
コレステロール吸収阻害薬	これすてろーるきゅうしゅうそがいやく	cholesterol adsorption inhibitor		小腸コレステロールトランスポーター阻害薬、エゼチミブ	「小腸コレステロールトランスポーター阻害薬」を参照。
サクビトリルバルサルタン	さくびとりるばるさるたん	sacubitril/valsartan			降圧薬の一種でネブリライシン阻害薬であるサクビトリルとアンジオテンシン受容体拮抗薬であるバルサルタンの合剤でネブリライシン阻害薬はブラジキニン分解抑制作用がありデキストラン硫酸セルロース法を用いたLDLアフェレシスでは血圧低下の恐れがあるため併用注意薬である。
酸化LDL	さんかえるでいーえる	oxidized low-density lipoprotein	oxLDL	変性LDL	酸化により生じる変性LDL。スカベンジャー受容体を介して取り込まれマクロファージの泡沫化をきたす。
自己免疫性高脂血症	じこめんえきせいこうしけっしょう	autoimmune hyperlipidemia			自己抗体が、リポ蛋白代謝に重要な、酵素や受容体などに対して産生され、その欠損症類似の病態を呈するもの。LPLやGPIHBP1の抗体による自己免疫性高カイロミクロン血症などがある。
脂質異常症	ししついいょうしょう	dyslipidemia			LDL-C高値やTG高値に加え、HDL-C低値を含む動脈硬化性疾患との関連が深い病態。
シトステロール	しとすてろーる	sitosterol			植物の細胞を構成する植物性ステロールの一種。ヒトでは小腸からNPC1L1を介して取り込まれ、通常はABCG5、ABCG8を介して排出される。
シトステロール血症	しとすてろーるけっしょう	sitosterolemia			ABCG5、ABCG8の異常のため植物ステロールの体外排出が不十分となり体内に蓄積されるために血中植物ステロールが上昇し、著明な黄色腫、若年性冠動脈疾患などを合併する常染色体性劣性遺伝形式をとる代謝疾患。
脂肪肝	しぼうかん	fatty liver			肝臓に脂肪が蓄積した病態。
常染色体性顕性（優性）高コレステロール血症	じょうせんしよくたいせいゆうせいこうこれすてろーるけっしょう	autosomal dominant hypercholesterolemia	ADH		LDL受容体およびその関連分子の遺伝子変異による遺伝性高コレステロール血症のうち常染色体優性（顕性）遺伝形式をとる疾患。
常染色体潜性（劣性）高コレステロール血症	じょうせんしよくたいせいれっせいこうこれすてろーるけっしょう	autosomal recessive hypercholesterolemia	ARH	LDLRAP1（low-density lipoprotein receptor adaptor protein 1）	LDL受容体のアダプタータンパクであるARHタンパク（LDLRAP1（low-density lipoprotein receptor adaptor protein 1））の欠損による高コレステロール血症。常染色体性劣性の遺伝型式をとる。
小腸コレステロールトランスポーター阻害薬	しょうちょうこれすてろーるとらんすぽーたーそがいやく	cholesterol transporter inhibitor			小腸においてNPC1L1に作用してコレステロールの小腸からの吸収を特異的に阻害する。腸肝循環を繰り返すことにより、持続的なコレステロール吸収抑制作用を発揮し、LDLコレステロール低下作用を有する。脂質異常症治療薬としてエゼチミブがある。
スカベンジャー受容体	すかべんじゃーじゅようたい	scavenger receptor	SR		酸化、アセチル化、糖化などの修飾をうけて変性したLDLを取り込む受容体であり、マクロファージや血管平滑筋細胞に存在する。SR-AI/II、SR-B1、LOX-1、CD36など。
スタチン	すたちん	statin			「HMG-CoA還元酵素阻害薬」の同義語。
スタチン関連筋症状	すたちんかんれんきんしょうじょう	statin associated muscle symptom	SAMS	追加しました	スタチンの投与に伴う筋肉に出現する副作用の総称。ミオパシー、筋痛、筋炎、横紋筋融解症がある。
スタチン不耐	すたちんふたい	statin intolerance			スタチン服用に伴って見られる有害な症状、徴候。ならびに検査値異常により、服用者の日常生活に許容困難な障害が生じ、結果としてスタチン服用の中断や減量に至るもの。
small dense LDL	すもーるでんすえるでいーえる	small dense low-density lipoprotein	sdLDL		低比重リポタンパク（LDL）粒子分画中のサイズが小さく密度の高い低比重リポタンパク（LDL）分画であり、酸化されやすいなどの特性があるため強い動脈硬化惹起作用をもつ。
タンジール病	たんじーるびょう	tangier disease		原発性低HDLコレステロール血症	網内系組織（扁桃、肝、脾、リンパ、骨髓など）にコレステロールエステルが沈着し、軽度の肝脾腫を示す。ABCA1遺伝子変異により、高比重リポタンパク（HDL）粒子が形成されない。

用語	かな	欧文表記	略語	同義語・関連語	解説
中間比重リポタンパク	ちゅうかんひじゅうりぼたんばく	intermediate density lipoprotein	IDL		超遠心法により、密度1.006～1.019 g/mLに分画されるリポタンパクを指す。VLDLやカイロミクロンが代謝される中間の粒子。
中性脂肪	ちゅうせいしぼう	triglyceride	TG	トリグリセリド、トリグリセライド	グリセロールの3個の水酸基がアシルエステル化された分子エネルギー源として利用され、余剰分は肝臓や脂肪組織に蓄積される。
超低比重リポタンパク	ちやうていひじゅうりぼたんばく	very-low-density lipoprotein	VLDL	超低密度リポタンパク	超遠心法により密度0.951-1.006g/mLに分画されるリポタンパクで、肝で合成され、アポB100、C、Eが主要アポタンパク。
超低比重リポタンパク受容体	ちやうていひじゅうりぼたんばくじゅようたい	very-low-density lipoprotein receptor	VLDL受容体		アポリポタンパクE(アポE)を認識し、アポE含有リポタンパクを取り込む受容体。心筋、骨格筋、脂肪組織に多く発現するが肝臓ではその発現は少ない
低HDLコレステロール血症	ていえいちでいーえるこれすてろーるけっしょう	low HDL cholesterolemia			血中高比重リポタンパク（HDL）コレステロール値が40 mg/dL未満の病態。
低比重リポタンパク	ていひじゅうりぼたんばく	low-density lipoprotein	LDL		超遠心法で密度0.951-1.006g/mLに分画されるリポタンパク。コレステロールを運搬し、末梢細胞でLDL受容体を介して取り込まれる。
低比重リポタンパクアフェレシス	ていひじゅうりぼたんばくあふえれしす	LDL apheresis	LA	LDLアフェレシス	体外循環を用い、血漿から低比重リポタンパク(LDL)を直接除去する方法。薬物療法で効果の得られない重度の高LDL-C血症に対する治療法であり、家族性高コレステロール血症ホモ接合体、重症ヘテロ接合体、高脂血症を伴う末梢血管疾患などが適応となる。
低比重リポタンパクコレステロール	ていひじゅうりぼたんばくこれすてろーる	low-density lipoprotein cholesterol	LDL-C	LDLコレステロール	LDL中に含まれるコレステロール。高LDL-C血症は動脈硬化の危険因子である。
低比重リポタンパク受容体	ていひじゅうりぼたんばくじゅようたい	LDL receptor	LDLR	LDL受容体	血中の主要なコレステロール運搬体である低比重リポタンパク（LDL）を取り込む受容体。その遺伝子変異は家族性高コレステロール血症の成因である。
低比重リポタンパク受容体関連タンパク	ていひじゅうりぼたんばくじゅようたいかんれんたんばく	LDL receptor related protein	LRP	LDL受容体関連物質	LDL受容体と構造の類似した受容体で、このファミリーに属するタンパクのすべてがリポタンパクの受容体として機能するわけではない。
デキストラン硫酸セルロース法	できすとらんりゅうさんせろーすほう	dextran sulfate cellulose method	DSC法	リボソーパー	デキストラン硫酸の陰性荷電とアポリポタンパクB-100の陽性荷電との静電結合によるアポリポタンパクBの選択的な吸着を原理とするLDLアフェレシスの方法。
ドコサヘキサエン酸	どこさへきさえんさん	docosahexaenoic acid	DHA	魚油に含まれるω-3多価不飽和脂肪酸	生体内で合成されない必須脂肪酸のうち魚油に多く含まれる多価不飽和脂肪酸で、ω-3脂肪酸に分類される。トリグリセリド低下作用などに基づいた動脈硬化抑制作用が報告されている。
トリグリセリド内臓脂肪	とりぐりせりどないぞうしぼう	triglyceride visceral fat	TG	中性脂肪・トリグリセリド	「中性脂肪」の同義語。 腹部内臓周囲に蓄積した脂肪。その蓄積は脂質異常症、高血圧症、糖尿病、動脈硬化症との関連が報告されている。
ニコチン酸	にこちんさん	nicotinic acid, niacin			脂質低下薬の一種で脂肪細胞における脂肪分解を抑制し、肝臓への脂肪酸の動員を減少させTGやVLDLの合成を抑制する。またリポタンパクリパーゼの活性を高め、VLDLの異化を促進する。Lp(a)の低下作用も報告されている。
脳髄黄色腫症	のうけんおうしょくしゅしょう	cerebral tendinous xanthomatosis	CTX		27-ヒドロキシラーゼ欠損症により、血中のコレスタノール値が上昇する。常染色体性潜性(劣性)遺伝形式をとる遺伝病である。進行性の神経障害、腱黄色腫、白内障、早発性心血管疾患を示す。
PCSK9	ぴーしーえすけーないん	proprotein convertase subtilisin/kexin type9	PCSK9		主に肝臓においてLDL受容体と複合体を形成し、その分解を促進して血中LDL-C値を制御するタンパク。スタチン等の脂質低下薬により、PCSK9タンパクの発現が亢進することが知られている。家族性高コレステロール血症の一部は本遺伝子の機能獲得型変異が原因である。
PCSK9阻害薬	ぴーしーえすけーないんそがいやく	PCSK9 inhibitor			PCSK9阻害薬は、抗体医薬と核酸医薬が開発されており、抗体医薬はエボロクマブ、核酸医薬はインクリシランである。
ヒドロキシメチルグルタリル-CoA還元酵素阻害薬	ひどろキシめちるぐるたりのこえーかんげんこうそそがいやく	3-hydroxy-3-methylglutaryl coenzyme A reductase inhibitor	HMG-CoA-RI	statin	肝におけるコレステロール合成の律速酵素であるHM-GCoA還元酵素の競合的阻害薬であり、肝臓内のコレステロール需要を増加させることによりLDL受容体発現を促進し、血清LDL-Cを低下させる薬剤。
VLDLレムナント	ぶいえるでいーえるれむなんと	LDL remnant			「中間比重リポタンパク」の項目参照。
フィブラート	ふいぶらーと	fibrate			核内受容体の主にPPAR-αのリガンドとして作用し、アポA-Iの合成を促進することでHDL-Cを上昇させ、またアポC-IIIの減少やLPL活性の亢進によりTG値を減少させる脂質低下薬。
Broad β病	ぶろーどべーたびょう	broad β disease			「家族性Ⅲ型高脂血症」の同義語。
プロブコール	ぶろぶこーる	probucol			抗酸化作用をもつ脂質異常症治療薬。LDL受容体を介さずにLDLコレステロールの低下作用をもつが、同時にHDLコレステロール低下作用をもつ。
ベータ超低比重リポタンパク	べーたちやうていひじゅうりぼたんばく	β-very low density lipoprotein	β-VLDL		アガロース電気泳動法でLDLと同じβ位に泳動されるVLDL分画(超遠心法で比重<1.006にて浮上する分画)。Ⅲ型高脂血症患者で見られ、コレステロールとアポEに富み、マクロファージを泡沫化させることが報告されている。
ペマフィブラート	ぺまフィブラート	pemafibrate	SPPARM α		選択的PPAR α モジュレーター(SPPARM α)であり、高脂血症治療薬として、TG低下作用とHDL-C上昇作用を有する。
ペムベト酸	べむべどさん	bempetoic acid			ATPクエン酸リアーゼの阻害剤であり、スタチンに加えてさらにLDL-Cを低下させる作用が示されており、現在治験が行われている。尿酸値を上昇する副作用がある。
ペルオキシゾーム増殖因子活性化受容体	ぺるおきしぞーむぞうしよくいんしかっせいかにじゅようたい	peroxisome-proliferator activated receptor	PPAR		リガンド応答性の核内受容体型転写因子。α・δ・γの3形がある。いずれも脂質代謝の制御に関与し、α アゴニストとしてフィブラート、γ アゴニストとしてチアゾリジン誘導体がある。α は肝臓での脂肪酸の燃焼、δ は骨格筋・褐色脂肪細胞での脂肪酸の燃焼、γ は脂肪細胞の分化、脂質の貯蔵に作用する。
変性LDL	へんせいえるでいーえる	modified LDL			「スカベンジャー受容体」の項目参照。
マイクロソームトリグリセリド転送タンパク	まいくろぞーむとりぐりせりどてんそうたんばく	microsome triglyceride transfer protein	MTP		肝臓および小腸に存在し、それぞれのリポタンパクであるVLDL、カイロミクロンにリン脂質やトリグリセリドを配合するタンパクである。
マロンジアルデヒド修飾LDL	まろんじあるでひどしゅうしよくえるでいーえる	Malondialdehyde Modified Low Density abetalipoproteinemia	MDA-LDL	酸化LDL	酸化LDLの一種。冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で、その測定が保険適応されている。
無βリポタンパク血症	ムベータリポたんぱくけっしょう	abetalipoproteinemia			MTTP遺伝子の機能喪失型変異による、常染色体性(潜性)劣性遺伝形式をとる遺伝病である。脂肪吸収阻害による脂肪便、網膜色素変性、多彩な神経症状を示す。
メタボリックシンドローム	めたぼりっくしんどろーむ	metabolic syndrome			内臓脂肪蓄積に加え軽度の耐糖能障害、低HDL血症、高中性脂肪血症、高血圧のうち2因子以上を合併した疾患。
遊離脂肪酸	ゆりしぼうさん	free fatty acid		非エステル結合型脂肪酸	脂肪細胞からホルモン感受性リパーゼ作用により放出され、門脈を介し肝臓に取り込まれる極性脂質の一種。肝臓・脂肪組織においてアシルCoA合成酵素の作用によりトリグリセリドの合成される。
リポタンパク	りぼたんばく	lipoprotein	LP	CM, VLDL, IDL, LDL, HDL, Lp(a)などに分類	リン脂質（PL）とFCの包膜、コレステリルエステル（CE）とトリグリセリド（TG）のコアからなる脂質成分とアポタンパクとの複合体。
リポタンパク（a）	りぼたんばくえー	lipoprotein（a）	LP（a）	リポリトルa、リボスモールa	動脈硬化進展に深く関わっているリポタンパク。構造上アポBを有する点でLDLに類似する。タンパク部分であるアポタンパク（a）はプラスミノゲンと相同性があり、血栓形成傾向にも関与する。
リポタンパクリパーゼ	りぼたんばくりぱーぜ	lipoprotein lipase	LPL	リボプロテインリパーゼ	血管内皮細胞の表面上に存在し、アポCIIを活性化因子として血液中のカイロミクロンおよび超低比重リポタンパク（VLDL）中のトリグリセリドの水解に関わる酵素。
リボプロテインリパーゼ	りぼぶろていんりぱーぜ	lipoprotein lipase			「リポタンパクリパーゼ」の同義語。

用語	かな	欧文表記	略語	同義語・関連語	解説
リン脂質	りんしつ	phospholipid	PL		構造中にリン酸エステルを有する脂質で細胞膜やリポタンパクの構成成分であるが、シグナル伝達にも関わっている。
レムナント様粒子リポタンパク	れうなんとうようりゅうしりぼたんぱく	remnant-like particle lipoprotein	RLP	IDL, CM, レムナント	抗アポB-100および抗アポA-II抗体を含むaffinity columnを通過させた血清に存在する分画で、理論的にアポB48とアポEのみを含むリポタンパクに相当する。冠動脈疾患のリスクマーカーとする報告がある。
レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ	れしちんこれすてろーあしとらんすふえらーぜ	lecithin-cholesterol acyltransferase	LCAT		血中でレシチンの脂肪酸をFCにエステル結合させる酵素。
レジン	れじん	resin		陰イオン交換樹脂	「陰イオン交換樹脂」の項目参照。
ロミタピド	ろみたぴど	lomitapide			MTTPに対する低分子化合物による阻害薬であり、家族性高コレステロール血症ホモ接合体を対象疾患とする。副作用に肝臓への脂肪蓄積、下痢などがある。